

作業路開設には、国や県の定める予算内で対応できる範囲に限界があり、軟弱な地盤では車両の移動速度が遅くなるため、作業効率が低下することがあります。また、近年の集中豪雨により、作業路の路肩崩壊や路面洗堀が発生し、森林整備に支障をきたすケースが増加しています。そのため、作業路の強靭化を図るために一部費用を支援し、効率的な森林整備と安定的な木材生産を推進するための「森林作業路機能強化支事業」を実施しています。

事業内容

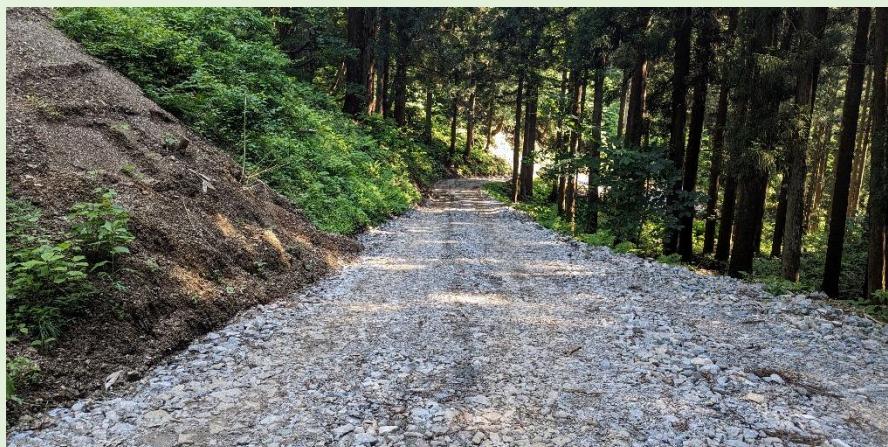
【事業費】100,000千円（うち譲与税10,000千円）

【内 容】

①路盤機能強化に要する経費に対する補助
路盤材（山土砂、砕石、割栗石）の敷設
※厚さは10～20cmを基準とする
※1 m²当たり3千円を上限

②排水機能強化に要する経費に対する補助
横断工及び排水構造物の新設
※1箇所当たり500千円を上限

③幅員拡幅改良に要する経費に対する補助
幅員改良、線形改良及び縦断勾配改良、横断勾配改良など
※1m当たり5千円を上限



事業実績・成果

【事業量】宮川町大無雁地内：L = 3,500m

「飛騨市森林集約化推進協議会」は森林所有者の特定と施業同意（集約化）を推進していますが、地籍調査が未完了の森林では境界明確化に時間と労力がかかり、森林整備の進行に支障をきたしています。境界不明瞭問題は林業技術者不足と並ぶ大きな障害となっています。これを受け、令和3年度から森林集約化協議会の体制と業務を見直し、境界明確化事業を追加で実施しています。また、森林経営管理法に基づき所有者不明特例措置の活用も進めています。

事業内容

【事業費】 5,999千円（うち譲与税5,999千円）

【対象森林】 10年以上森林整備が未実施で森林經營計画団地外

【優先順位】 土砂災害防止機能（山地災害危険地区など）
水源涵養機能（下流域の水道施設有無など）

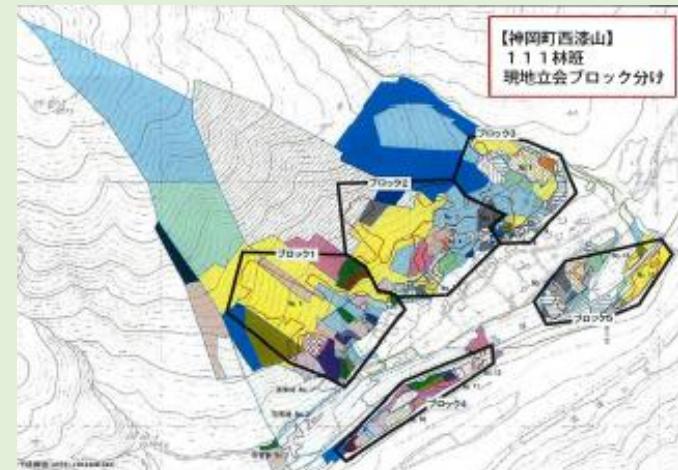
【内 容】 各地区での地元説明会の実施

- ・意向調査の実施
- ・対象森林の測量
- ・現地立会確認
- ・境界明確化の実施
- ・所有者不明特例措置の探索
- ・集約化データの作成

事業実績・成果

【事業量】

- ・意向調査：古川町畠畠地内69.61ha／河合町大谷地内32.48ha
- ・意向調査及び集積計画：神岡町小萱地内9.52ha
- ・所有者不明特例措置 探索：神岡町西漆山地内 0.11a



飛騨市はこれまで、森林環境の保全と災害に強い森づくりを進めてきましたが、スギやヒノキを中心とする人工林の持続可能な利用と、活用が進んでいない広葉樹資源の活用が課題となっています。特に、戦後手入れされていない広葉樹天然林は70～80年生まで成長し、皆伐中心の伐採が行われているため、広葉樹の多様な森づくりに必要な技術やノウハウが失われています。これを受け、飛騨市では持続可能な広葉樹林業の仕組みづくりを目指し、天然林の改善を目的とした試験的な森林整備を実施しています。

事業内容

【事業費】6,778千円（うち譲与税4,306千円）

【内 容】

飛騨市広葉樹天然生林の施業に関する基本方針に基づく天然林施業（データ収集）

- ・場 所：飛騨市宮川町字菅沼地内
- ・事業量：帯状皆伐 A=1.3ha、下刈り A=1.3ha
作業路補修 L=115m、林地保残帶設置

事業実績・成果

【搬出材積】260.272m³

【更新確認】

毎年、更新状況を確認

確認樹種：ミズナラ、ヤマモミジ、トチノキ、
キハダ、ブナ 他多数



タワーヤーダによる集材※イメージ



市の基本方針に基づく帯状伐



伐採された材

飛騨市は広葉樹を地域の重要な資源と位置付け、適切な森林整備を通じて価値の高い森を作り、小径木広葉樹の活用を進めて新たな経済循環を創出する「広葉樹のまちづくり」を推進しています。しかし、市内産広葉樹が身近な場所で使用される例はまだ十分ではありません。そこで、商業施設や観光地、医療施設などのエントランスやサロンなどで市内産広葉樹の活用を支援し、広葉樹のまちづくりのPRと飛騨市のイメージアップを図ることを目指しています。

事業内容

【事業費】1,691千円（うち譲与税1,691千円）

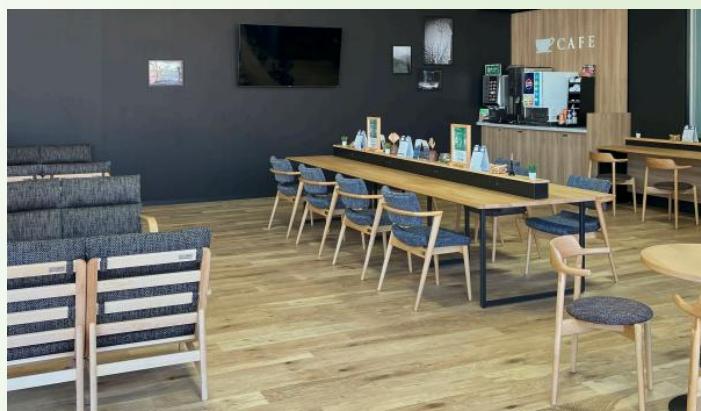
【内 容】

飛騨市産広葉樹を原木材積3m³以上もしくは製材材積1.5m³以上使用した内装及び外装の木質化、木製家具・什器などの設置

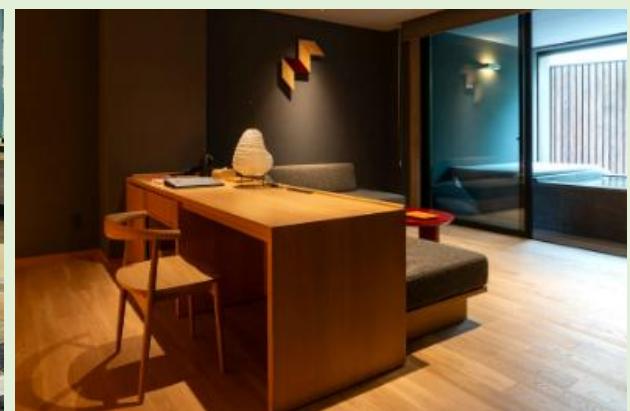
・補助率：対象経費の1/5(上限1,000千円)木質看板の製作補助率：対象経費の1/2（上限100千円）



飛騨市産広葉樹材の仕分けの様子



神奈川スバル(株) 厚木・伊勢原店



星野リゾート 界 奥飛騨

事業実績・成果

【内容】

・神奈川スバル株式会社厚木・伊勢原店

飛騨市産ブナ 製材材積 1.8m³
チェア・テーブル他

・星野リゾート 界 奥飛騨

飛騨市産ナラ 製材材積 3.1554m³
チェア

世界では無計画な伐採や違法な伐採、児童虐待が問題となっています。この現状を改善するため、持続可能な森林開発や適正な木材の流通、権利を守る社会を目指して、国際的な認証を受けた森林からの木材活用が進んでいます。飛騨市では、市内産広葉樹材や認証木材を使った商品の高付加価値化を目指し、森林認証を取得した市有林約6,200haの活用を進めています。また、流通・活用に関わる2社も認証を取得し、認証材のPR活動を東京都で実施しています。さらに、全国6自治体と連携し、ネットワークを形成しています。

事業内容

【事業費】1,238千円（うち譲与税1,238千円）

【内 容】

市有林の伐採により認証材として流通を行っています。市有林の森林認証維持審査と、市内2社のCoC認証維持に対して補助金を交付し、認証材の管理・加工を支援しました。また、東北の認証材取扱事業者と連携し、東京都で市産認証材広葉樹のPRを実施しました。

事業実績・成果

【内容】

東北等の認証材取扱事業者と連携し、東京都で行われた「WOODコレクション」展示会にて、市産認証材広葉樹のPRを実施した。

認証材流通量 246.866m³



国・県補助制度では、対象とならない広葉樹施業について、森林所有者の同意を得た天然生林を対象に独自の補助を行い、施業を推進します。飛騨広葉樹天然生林施業の基本方針に基づき、民間事業体が主体となった取り組みを支援することで、市内産広葉樹の安定供給と持続可能な森林管理につなげます。

事業内容

【事業費】7,998千円（うち譲与税7,998千円）

【内容】

森林経営計画団地内施業に対する補助

- ・若齢級林において実施する除伐及び保育間伐
(育成木施業)
- ※但し、広葉樹施業に関する基本方針に基づく施業内容に限る。

森林経営計画団地外施業に対する補助

- ・高齢級において実施する択伐（小規模間伐）
及び間伐
- ※但し、広葉樹施業に関する基本方針に基づく施業内容に限る。

事業実績・成果

【事業量】

- ・事業対象地：古川町黒内地内
- ・区域面積：4.59ha
- ・刈り出し：2.00ha
- ・帶状択伐：1.19ha
- ・作業道開設：189m



市がこれまでに里山林整備事業として実施してきた緩衝帯（バッファゾーン）整備、危険木・支障木除去事業などの森林整備の在り方を抜本的に改め、令和6年度以降はガイドラインに基づき集落等が主体となって実施する緩衝帯整備等の森林整備に対し、市が支援を行う新たな制度として全面的にリニューアルしました。

事業内容

【事業費】11,902千円（うち譲与税11,902千円）

【内容】

R5年度に新たに策定した林縁部の整備に関するガイドラインに基づき、人家に近く暮らしどと密接に結びついている里山について、集落が主体となった公益的機能の維持・向上を目的とした整備への補助を行いました。



事業実績・成果

【内容】

危険木処理

- 古川町末真地内0.24ha
- 古川町寺地区0.25ha
- 神岡町石神地内0.69ha

伐倒木除去

- 古川町袈裟丸区0.29ha